

会議録

会議の名称	平成27年度第2回北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	平成27年11月18日（水）午後7時～午後9時
開催場所	加東市役所 2階 201会議室
議長の氏名（座長 池田潔）	
出席及び欠席委員の氏名	
<出席委員> ・藤本隆文 ・岩佐文雄 ・足立保雄 ・本岡賢二 ・原田康弘 ・笈一義 ・芹生一二 ・長井孝章 ・竹内宏 ・熊谷佳代 ・池見和身 ・吉田恵子 ・池田潔	
<欠席委員> ・深田美香 ・大山高弘	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	
<加西市> ・理事 一幡孝明 ・ふるさと創造部長 西岡義信 ・ふるさと創造部人口増政策課長 千石剛 ・ふるさと創造部人口増政策課主任 小林和敏	<加東市> ・協働部長 芹生修一 ・協働部企画協働課長 長谷川茂 ・協働部企画協働課副課長 前中公和 ・協働部企画協働課主幹 小林寿泰 ・協働部企画協働課主事 戸田紘平
説明者として出席した市の職員	
・加西市及び加東市関係職員 22人	
オブザーバー	
<兵庫県> ・企画県民部企画財政局市町振興課企画班 職員	
<西脇市> ・都市経営部次世代創生課 課長及び課長補佐	<多可町> ・プロジェクト推進課 課長及び副課長
1 議 事 (1) 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン（素案）のパブリックコメント実施結果について (2) 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン（案）について 2 会議資料 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン（案） ほか 3 会議の経過 ⇒別紙「平成27年度第2回北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会・会議の経過」のとおり	
平成28年 / 月27日	
	座長 <u>池田 潔</u> 副座長 <u>岩佐文雄</u>

(別紙) 平成27年度第2回北播磨広域定住自立圏共生ビジョン懇談会・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
	1 開会
	2 座長挨拶
	3 協議
	(1) 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン(素案)のパブリックコメント実施結果について
	事務局から説明
	(2) 北播磨広域定住自立圏共生ビジョン(案)について〔資料1・資料2〕
	事務局及び担当職員から説明
	【質疑応答等】
・議長	・前回の会議で出された意見に対して、内容によっては、それぞれの市町で別々にするほうがいいものもあれば、連携するほうがいいものもあるかなという説明だったと思う。各委員に各論でその細かい意見をお聴きする前に、そういったところを全体としてどんな形でこれから3市1町において情報共有されるのかというところを答えていただきたい。
・事務局	・昨年秋、10月か11月ごろだったと思うが、この頃から実際に3市1町で連携して取り組むことができる事業について、各市町の担当職員で構成する担当者会議の中で議論を行い、大枠の方向性が整理できた段階で加西市と加東市が合同で中心市宣言を行った。その後、協定書に掲げる項目について、担当者会議における内容精査を踏まえて整理を行い、今年9月に各市町議会において、その協定を締結することについて可決いただいたという流れである。また、前回会議においても非常にタイトな策定スケジュールであることについて、これまで関係市町間における議論を丁寧に行ってきたというところで御理解願いたいと申し上げてきたところである。今後は、この進捗管理も行っていかねばならないと考えているので、この3市1町の担当者による担当者会議は、継続していきたいと考えている。委員の皆様には平成28年度末までを任期として就任いただいているので、今後も御意見を承りながら、この共生ビジョンについて検証していきたいと考えている。
・委員	・将来像に4つの項目があるが、1番目の「安全安心な暮らしの確保」に係る事業が圧倒的に多く、ほとんどないのが、2番目の「地域経済の振興」であり、その中でも農業の内容が全くない。この地域は何と言っても農業が一番であることから、何か農業の項目で連携して行うことができる取組があればいいと思う。
・担当	・農業については担い手が減少しているという中で、それぞれの地区でいろんな検討課題があると思う。地区ごとに営農組合を立ち上げたりしながら農業の継続、振興を進めているところであるが、なかなか圏域全体で各地区の個々の問題、そういったものを解決していくというのは難しいところがある。地区ごとに人の事情、地域の事情、田んぼの事情があるので、それぞれの地区において対応できる形で農業の振興を進めていけたらと考えている。
・委員	・確かにそのとおりだと思う。非常に難しい問題であるが、いろいろと取組を実践していく中で、連携して取り組んでいくほうがいいというものがあれば、やっていけばいいのではないかと思う。
	・「MY TREE ペアレンツプログラム」は、加東市が児童虐待防止事業としてされているが、必ずしも虐待の話だけではないのではないかと。子供の心、親の心、その心をサポートする支援、そういう内容の事業のように思う。そうすると、この事業を加東市では虐待防止事業とされているかもしれないが、ここではそうではなく、3市1町で連携するのであれば、心の子育て支援のような何かそんな名前にしてはどうかと思う。
・担当	・「MY TREE ペアレンツプログラム」は、既に虐待を経験した当事者が再び虐待を受ける、虐待をすることがないように本人、養育者のセルフケアと問題解決力を高めるためのプログラムである。内容としては、10人程度の参加者が、お互

	<p>いに知り合いがないという環境の中で安心して自分や子どものことを話し合っ て、その中で問題解決力を養っていくというような形になっており、虐待をしてい る親であって、虐待をする自分を改善したいという意識のある方を対象にしている ので、虐待防止事業としている。</p>
・委員	<p>・思いはわかるが、あえてここではそうではなくて、心の部分を支援するような表 現のほうが適切ではないかと感じている。</p>
・担当	<p>・表記、表現の方法について、再度検討する。</p>
・委員	<p>・文化・スポーツ施設相互利用推進事業に関しては、魅力のある事業プログラムを 効果的に実施していくことで中身のいい事業展開につながるのではないかと思っ ている。今後実施していく上で充分中身の検討をしながら進めていただきたいと思 う。</p>
・委員	<p>・兵庫教育大学には、スポーツ教室などの育成講座に関係する専門家がいますので、 どんどん活用していただければと思う。</p>
・委員	<p>・文化施設の相互利用に関連したことであるが、今後人口が減少していく中で、将 来的にはこの3市1町が一緒になるようなこともあるのではないかと。ということに なれば、各市町に住民サービスとして置かなければいけないという縛りがあるので あればまた別であるが、ないのであれば、この3市1町には、いくつかのホールが あり、相互に貸し借りしてもいいのではないかと。施設の維持管理は、非常にお金か かかるので、将来的な話ではあるが、施設利用の広域連携ということも検討してい くほうがいいのではないかと。</p>
・オブザーバー	<p>・そもそも定住自立圏がスタートした経緯は、各市町がそれぞれ単独で全ての行政 機能を備えることは、これからの時代不可能であるというところから、集約とネッ トワークにより、各市町が役割分担をしながら、暮らしやすい圏域を整えていこう というのが一つの大きな原点になっている。この考え方からいけば、各市町がそれ ぞれ分担して施設を充実させるという考え方も持ってしかるべきだと思いが、それ ぞれの市町の考え方もあり、一概には申し上げられない問題だと思う。ただ、圏域 全体として住民の暮らしやすさを向上させていくということに加え、行政コストを 低減していく意味においては、現在各市町で公共施設の適正化を進めている中では あるが、そういった視点も踏まえながら検討していく必要があると考える。</p>
・委員	<p>・西脇市の見解を聴いたが、他の2市1町についてはどのように考えているのか。</p>
・事務局	<p>・定住自立圏の考え方からすれば、施設の統合というのは理念としてあるが、3市 1町は、それぞれの首長の意思によって十分適正に運営されているという現状にあ り、現時点においてはもう少しゆるやかな連携を想定している。現在保有している 施設をできるだけ住民サービスを落とさず、向上させるというイメージで、定住自 立圏の中では取り組んでいこうというのが現時点での方向性と考えている。</p>
・事務局	<p>・加東市においても、今後の行政運営を見据えた中で、公共施設の適正化の取組を 進めているところであり、各市町においても同様の取組を行っているところであ る。定住自立圏における広域的な取組については、圏域住民の利便性を向上させる という観点において、3市1町で調整を行っているという状況である。</p>
・オブザーバー	<p>・多可町においても、現在統廃合を進めている状況である。3市1町での連携を行 う上においては、当然将来的にはそういったことも考えていくというのが理想の形 であると思うが、現時点においてはゆるやかな取組が始まったばかりということ で、いきなり切り込んだ考え方は難しいと思う。将来的には、消防組合のような、 共同運営といった流れになっていくというのが理想かなということではあるが、そ ういった方向に動きかけているというのが今の段階かと思っている。</p>
・委員	<p>・是非将来的な課題として検討いただきたいと思う。</p>
・議長	<p>・例えば、市外の方が施設を利用される際のハードルを低くするような利用条件 の緩和ということもこの連携の取組の中でできるかもしれないということ、公共交 通網の整備もすごく大事な話ではないかと思うが、そういったものがだんだんと促 進されていくと必然的に一緒にやったらいいとかというような機運が高まっていく ことも今後期待できると思う。そのような形で進んでいけば、さきほどの話もそう 遠くない将来に実現していくのではないかと感じる。</p>
・委員	<p>・地元のコーラスグループで歌っているが、ホールで発表というか、晴れの場を持</p>

	<p>つということ、日々の生活の中で大切な節目である。コーラスだけではなく、各グループも同じような思いを持っていると思う。そういう身近なホールがなくてもいいのではないかという考え方はもう少し先かなと思う。隣町のホールまで行って発表できるか、その発表をしている人たちを御近所の人が隣町のホールへ行って観ているかと言うと現状はそうではない。もう一つ、文化の視点で思うのは、そこにかかわることによって例えば病院、健康の話がたくさん出ているが、それにどれだけ寄与するかというところを意識してほしいと思う。生き生きと元気に日常生活を送れることで医療関係の費用が何で少なくなっているのかという感じを私たちは思いながらやっている部分もある。広域で統合しながらやっていく方法は、確かに流れだと理解するが、身近なホールのあり方というものを少し行政の中で考えていただきたいと思う。もう一点、こういう話をしておいてこれを言うのはどうかと思うが、合併などにより行事が増えた。行政の職員は、それに係る会議を持つのは、仕事なので大事であるが、それに巻き込まれる住民はたまったものではない。こういうところがまず整理ができて、それぞれの立場でいろんなかかわり方ができて、やってよかったなというやり方にしてほしいと思う。</p>
・議長	<p>・住民たちが暮らしよくなるための定住自立圏ということでもあるので、住民の声をよく拾っていただきながら計画していただきたいと思う。</p>
・委員	<p>・文化・スポーツ施設相互利用推進事業であるが、例えば文化の講座などいろんな各市町における情報が発信されることにより、それらのどこにでも参加できるということになるのか。</p>
・担当	<p>・圏域の人が行きたいと思うイベント等に参加していただけるような、そういう情報発信をしていきたいと考えている。</p>
・委員	<p>・兵庫教育大学との連携のところに、子育て支援を図るという言葉があるが、兵庫教育大学のほうでも、子ども・子育てに関する相談について答えられるような教員もいるので、もっと活用していただければと思う。</p>
・委員	<p>・第1回の会議における意見に対する回答を見ていると、まずは市町ごとに取り組んでいくというような文面が非常に多い。ただ、3市1町の4本の矢が1本にならないと強くないということだと思う。余り時間がなかったから当然のことだと思うが、今からは予算がついて、これからが本当の勝負になってくると思う。この内容についてはこれからも協議をしていくことになるが、今後期待していきたいと思う。</p>
・委員	<p>・創業支援という表現は、概念的な表現であり、分かりにくいのではないか。</p>
・議長	<p>・表現については、事務局のほうでも検討をいただきたいと思う。</p>
	<p>・既に商工会ではいろいろ連携事業をされているので、それを核としながらそういう支援や地域資源のブランド化が図っていければいいのかなと思う。</p>
・委員	<p>・やはりいいところをまねていく、それこそが連携だと思う。商工会や商工会議所にあまりこだわる必要はないが、その辺の連携をよくしないといけないと思う。</p>
・委員	<p>・人口減少時代に入っていくという中で、若い人たちの働き場がなければ人口が増えていかない。そういったことから、各市町において企業誘致について取り組んでいると思うが、これは非常に難しい問題であると思う。しかし、圏域の中のいずれかの市町に来た話が、条件面で合わなかった場合に、他の市町にその話を振るなどの情報共有をして、できるだけUターン、Iターンができるような形で考えていただけたらと思う。それと基本的には、出産、育児がしやすい、子育てがしやすい、そういう地域でなければならないことから、そういう支援を是非考えていただきたいということ、豊岡の定住自立圏の取組の中に、独身男女の出会いの機会の提供というものが出ている。そういったことも検討事項ということでお願いしたい。</p>
・委員	<p>・広域の備蓄体制の整備について、やはり備蓄というのは緊急を要することになるので、もう少し具体的に全体的な内容を考えていかなければならないと思う。</p>
	<p>・北はりま消防の関連で、各市町消防団の体制が違うと思うが、災害時等における連携体制はどうなっているのか。</p>
・担当	<p>・現在、各市町がどういった備蓄物をどれだけ持っているかという情報を共有していない状況であるので、まず、そういった情報交換を行った上で、被災の状況に応じて各市町へ応援するというような形をとっていききたいと考えている。</p>

・担当	<p>・消防団と北はりま消防組合との関係であるが、現在構成市町それぞれに消防署があり、災害対策本部が立ち上がった際には、その署長又は副署長が災害対策本部に入るような体制をとっており、消防団と北はりま消防組合との連携がスムーズにできるようにしている。</p>
・委員	<p>・各市町によって、災害時要援護者などに対する避難勧告や指示を出す基準が違うということを知ったことがあるが、その辺の整合性は今後どのようにするのか。</p>
・担当	<p>・各市町における状況が違うので統一というのは難しいが、受入先となる福祉施設の連携については、今後考えられるところである。</p>
・委員	<p>・今後圏域内において、だいたいこのようなときに避難情報を出すとか、そういう話はされていると考えてよいのか。</p>
・委員	<p>・避難情報を出すレベルが各市町違うというのは、それぞれ状況が違うので当然のことである。</p>
・担当	<p>・圏域の中で共通した避難の基準を設けるとするのは難しく、やはりその地域に合った危険性を考慮した避難情報を出すというのが本来の形であると考えている。</p>
・委員	<p>・公共交通広域連携調査研究事業の事業概要の中にＩＣカードを導入して調査研究を行うとあるが、どういったＩＣカードの導入を検討されるのか。</p> <p>・同事業の事業計画の中で試験運行、事業費５０，０００千円と書いてあるが、既設のバス路線を活かせる方向で模索していくように考えていただきたい。</p> <p>・公共交通利用促進事業の事業概要に域内の移動を増やしとあり、また、事業効果に圏域内の公共交通網という記載があるが、交流人口を増やすことがこの地域にとっての成果で、この地域から都市部に行くのも便利だと感じていただくことが、将来的に住みたいなと思っていただける要因かと思うので、利用促進の部分については、できれば域内外の移動を増やすという表現にしたほうがいいのではないかと。</p> <p>・東日本大震災ではバスの無線がすごく役立ったという事例がある。神姫バスにおいても、現在、バスロケーションシステムの導入を進めているところであるが、防災対策において、そのような無線が必要であるという検討が進むのであれば、その搭載について支援いただきたい。</p>
・担当	<p>・路線バスや市内完結しているコミバスを含めた公共交通機関の３市１町を結ぶ路線の利便性向上というのが定住化に一番有益なものであり、ほかの事業にも大変大事なものであることから、これらをたとえば一つのＩＣカードで利用できるようにできないかということが３市１町の協議の中でも話題になったところである。ただ、やはりそのハードルが高いということもあり、調査研究という書き方をしている。</p> <p>・試験運行の事業費５０，０００千円という部分については、事業の内容をこれから突き詰めていけば、大きな事業費になる可能性があるが、現段階ということで挙げている。新しい路線を整備する場合には、当然そのニーズがどのくらいあるのかということを確認する必要性が出てくるが、前回の会議でも意見が出ていたが、実際走らせてみないとわからないということもあると思う。もちろん簡単に走らせるわけにはいかないが、調査研究を行っていく中で必要となる場合には、大きな費用がかかってくるということでこの金額を挙げている。当然既存の路線をまず活かしていくことは大事であると思っているので、新しい路線の整備ということだけではなく、利用促進事業という形で挙げている。既存の路線の維持確保については、必ず力を入れていきたいと思っている。</p> <p>・域内外という表現についてであるが、利用促進をしていく中で域外へ、あるいは都市部へという部分は当然重要であるが、まずは圏域内の移動というものを調査研究することで他市町の医療施設や商業施設への移動をスムーズにしていく、そういった部分で取り組んでいきたいということで域内という書き方にしている。</p>
・担当	<p>・バスの無線の利用ということであるが、今すぐ事業として挙げていくには研究も必要となり難しいが、この計画自体も見直しをかけていくので、今後いろいろな良い意見が出てきた場合は検討していく。</p>
・委員	<p>・既存の路線を中心に考えてこの構想の中に入れていくのは当然であるが、広域の管内で大きなものはやはりまとめていかないと財政的にももたないと思う。身の丈に合ったバスの路線をもう少しきめ細かく見直せば、利用がまだまだ増える余地が</p>

	<p>あると思う。また、バスの時刻や路線の情報が圏域内で伝わればその便利さも共有でき、利用料も共通のものにできれば利用しやすさにつながっていくのではないかなと思う。それが着実に暮らしやすさや安全ということにつながっていくというものではないといけないと思う。安全で安心な地域だということ売りをして、人が集まるようにしようと思えば、公共交通網の整理にしっかりと市民町民あげて、慎重に取り組んでいく必要があると思うので、できるだけ早急に取り組むという方向でお願いしたい。</p>
・委員	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通広域連携調査研究事業の事業概要に既存路線の再編や各地域を結ぶ新たな路線の実現とあるが、すでに廃止された路線もこの中に含めていただけるのか。 ・公共交通利用促進事業の事業概要に地域住民の公共交通利用に対する心理的障壁を下げとあるが、これはどういうことなのか。公共交通を利用するのにどういう心理的障壁があるのか。
・担当	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通については、圏域の各市町において非常に重要な課題になっている。当然それぞれの市町がその市内、町内の中での公共交通というものをまずは確保していくことになるが、生活圏域は市内だけで完結していないという状況であることから、市外への部分というものも考えていかなければいけない中でその部分についてこの定住自立圏において取り組んでいきたいと考えている。まずニーズ調査をできる限り早く行い、市町間を結ぶ路線についても早い段階で検討していきたいと考えている。 ・廃止路線の件についてであるが、これについてはまずそれぞれの市町の中での公共交通の再編ということがあり、当然それには他の市町とも連携をしていくことが必要である。生活圏域が市内だけでは完結しないという方もあるので、実際にどのようなニーズがあるかということ調査していかないといけないと思う。それらを踏まえて、どの路線が必要な路線なのかということについて、神姫バス株式会社ともよく協議していきたいと考えている。 ・心理的障壁という表現について、バスを利用されないのにはさまざまな理由がある。例えばバス停が遠いとか、特にこの北播磨管内であれば自家用車の所有率が非常に高いことから、車のほうが便利であるということになかなか公共交通機関を利用していただけないという部分がある。公共交通機関を使ってとなるとやはりそのハードルが高く、ふだんから乗り慣れていないといったことがあるので、そういった方に対してどのように公共交通機関を利用していただけるかというところでこういう書き方をしている。
・委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域観光情報発信・誘客活動事業の事業計画で平成27年度にハイキングガイドマップの作成となっているが、これについては、県民局の夢ビジョン会議のほうで数年前に作成されている。住民から出ている委員の中で作成されたものであるが、それを踏まえて作成等を考えていただきたい。 ・共生ビジョンの中に観光の入込客数というものがあるが、その中の加西市の日帰り客数がほかの市町に比べて極端に少ない。大きな施設の観光地があるのに、こういう推移になっているのか。
・担当	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドマップの作成であるが、3市1町にはそれぞれお勧めできる山があり、それを平成27年度において1冊のガイドマップにまとめることとしている。これは、阪神間のハイカーや登山者の誘客を行いたいということで今年度作成しているものであり、各市メインの山を1つ、サブの山を2つ掲載し、12の山をまとめたガイドマップとする予定である。 ・加西市の平日の日帰り客数であるが、これは加西市のほうで観光客動態調査の際に県に報告されている数字である。
・委員	<ul style="list-style-type: none"> ・有害鳥獣及び特定外来生物被害防止対策事業の事業計画では、現況事業の連携実施、新たな取組の模索・検討という内容で平成31年度まで続いているが、実際に被害に遭っているところについては、早急に対応していただきたい。
・担当	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町では既に国庫補助を利用した獣害防止柵の設置などに取り組んでいるところであり、定住自立圏においては、事業概要にも書いており、圏域内の市町間でより有効な獣害対策について情報共有し、広域的な対策に取り組んでいくこととしている。獣害については、対策が十分にとられていないところに被害が集中す

	<p>るといった傾向があるので、圏域内においても被害の差が出てくるといったこともある。被害が出ていると言われている地区等については、できる範囲で個々に対策を検討しているところである。</p>
<p>・委員</p>	<p>・猟友会会員が減っているという事実がある。猟友会の会員を増やす、また、若返らせる方法はないのか。</p>
<p>・担当</p>	<p>・猟友会会員は、全国的に減ってきており、また、高齢化が進んでいるということから、捕獲活動に支障が出ているという状況であり、現在、県や国においても猟友会会員の確保対策を進めている段階である。各市町においても、猟友会会員になれる方に対する補助等によりその対策に取り組んでいる状況である。</p>
<p>・議長</p>	<p>・御意見をいただいた中で、字句等の修正や再度検討すべき箇所などがあつたと思うが、それらの箇所については、座長一任という形で、後日事務局と私のほうで調整をさせていただきたいと思うがどうか。</p> <p style="text-align: center;">〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p>
<p>・議長</p>	<p>・それでは、字句等の修正や再度検討すべき箇所については、事務局と私のほうで調整し、進めさせていただくこととする。</p>
	<p>(3) 今後の予定について 事務局から説明</p>
<p>・議長</p>	<p>・どのような形で公表されるのか。</p>
<p>・事務局</p>	<p>・市のホームページにおいて、PDF形式でダウンロードができる形で公表しようと考えている。</p> <p>4 閉会 副座長</p>